

メンタルヘルス通信



ココロ リフレッシュルーム Vol:56 2011・8・15

○ 夏休み

子どもたちの夏休みもそろそろ終わりでしょうか。社会人になり夏休みがなくなった今、“夏休み”というフレーズを聞くだけでなぜだか心がウキウキしてきます。

お子さんの夏休みの宿題は片付いていますでしょうか。「早くやっつけてしまおう！」と早々に取りかかった子もいれば、「あとでやる～！」と手をつけずにいて今になって焦って残った宿題に頭を悩ませている子もいるのではないかと思います。それもまたその子の個性なのでしょう。ついつい子どもに口うるさく言うてしまうこともあるのではないのでしょうか。親の立場で見ていると、ハラハラすることも多いと思います。子どもへのかかわりかたも親としてのみなさんの個性があらわれているのだと思います。どこかへ出かけて遊んだり、家族で花火をしたり、楽しい思いや嬉しい思いをするばかりが夏休みではないと思います。言葉にしていなくても子どもたちが感じていることや学んでいることは意外と多いものです。何かを我慢したり、淋しい思いをしたり、喧嘩をしたり、色々な経験をして、色々な気持ちを抱えながら子どもたちは大きくなっていくのではないのでしょうか。

§ : 28 精神障害 その2

前回から精神障害について考えてきました。今回はどのような精神症状があるのか、いくつかの精神症状について具体的に考えていきたいと思います。



○ 意識の障害

私たちが何かを見たり、人の話を聞いたり、直接的に自分のこととして経験していること、「これは私の体験だ」と感じることを意識と呼びます。

意識の障害は大きく分けて、意識混濁ともうろう状態の2つがあります。

意識混濁(こんだく)は、意識の明瞭度(はっきりとあきらかであること)が低下した状態です。ごく軽度のレベルから完全な意識消失まで様々な段階があります。せん妄は比較的軽い意識混濁に錯覚や幻覚、興奮などを伴った状態を示す用語ですが、昏睡(どんなに強い刺激を与えても覚醒しない状態)よりも軽い意識混濁をすべてせん妄と呼ぶ場合も多いです。

意識混濁は脳の障害による場合がほとんどですが、心の問題によって生ずることもあります。

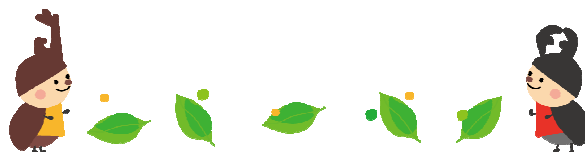
次にもうろう状態です。もうろう状態は意識が狭まった状態であり、意識混濁を伴うこともあります。ふいに不思議な行動があらわれ、それはしばらくするとおさまるのですが、その間の記憶はありません。てんかん(大脳の疾患)の発作症状としてあらわれることが多いのですが、もうろう状態も心の問題によって生ずる場合があります。

○ 知覚の障害

知覚とは、私たちが感覚器を通して自分の状態を捉える働きです。私たちには視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚の5つの感覚があります。

知覚の障害には、ある対象を間違っただけで知覚する錯覚、対象がないのにあるとはっきり知覚する幻覚があります。例えば、壁にできたしみを人の顔だと見間違えるのは錯覚であって、誰もいないのに誰かがこっちを見ているというのは幻覚です。錯覚や幻覚は、知覚の種類によって錯視、錯聴、錯味、錯嗅、錯蝕、幻視、幻聴、幻味、幻嗅、幻触と呼ばれます。

幻覚は病的な現象ですが、錯覚の場合は必ずしもそうではなく、誰にでもほぼ等しくおこるような錯覚もあります。例えば、道路に描いた絵が立体に見えるというトリックアートも私たちの錯覚(生理的錯覚)を利用したものです。



○ 見当識の障害

見当識とは、自分のいる場所や時間、季節、周囲の人物や状況を正しく理解している能力です。私たちは通常、意識せずとも時間や場所など自分と周囲の関係を正しく認識して過ごしています。しかし、意識や記憶などが大きく障害されると見当識が失われ、時間や場所、家族のことがわからなくなったりします。見当識が失われた状態を失見当といいます。

見当識の障害は、脳血管障害や脳外傷、アルコール性脳障害など、多くは脳障害によって生じますが、心の問題から生ずる場合もあります。

○ 思考の障害

思考の進み方の障害には、思考奔逸(ほんいつ)、思考滅裂、思考制止、思考途絶などがあります。

思考奔逸：考えが次々に湧いてとめどがなく、多弁で早口となり、考えが逸れ、まとまりがない。

思考滅裂：話していることにつなかりがなく何を言っているかわからない。

思考制止：思考の流れが緩慢でなかなか考えが進まない。

思考途絶：思考の流れがはたと中断してしまう。

思考の内容の障害には主に、妄想と強迫観念があります。

妄想は誤った病的な信念であり、本人におかしいという自覚がないため、どのように説明してもその誤りを認めてもらうことができません。

強迫観念は、いくら考えないようにしても繰り返し頭に浮かんでくる不快な観念です。例えば、手が汚れているという思いが繰り返し浮かんで来て何度も何度も手を洗わずにはいられないというものです。強迫観念は自分でおかしいと感じ、日常生活にも支障をきたすため非常に苦しみ悩みます。

精神症状には上記以外にも様々なものがあります。何か1つの特徴を取りあげて〇〇病と決めつけることは危険です。精神障害は正しい理解が必要です。薬物療法や心理療法により症状が緩和され過ぎやすくなります。早期に受診し適切な治療をうけることが大切です！

*** 気になることがある方は、まずお電話下さい ココロ リフレッシュルーム 0142-76-4780**

社会福祉法人 幸清会 ・ 社会福祉法人 大滝福祉会